

※字数指定のある問いでは、特にことわりのない限り、句読点等の符号も一字分と数えます。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(問題文中の※は、終わりに注があります。また、問題文の一部を書き改めてあります。)

沈黙は「金」ではなく「罪」

西洋のことわざに、「雄弁は銀、沈黙は金」という言葉があります。「口から泡を飛ばすような雄弁よりも、黙して語らぬほうが分別があり、すぐれている」という意味です。

なぜか日本では「沈黙は金」だけが切り離されて、「おしゃべりが度を超すと人間の価値を下げることになる」という、いましめの意味でよく使われています。①「と同じように、「沈黙」は奥ゆかしさの要素の一つとみなされているわけです。

1 欧米社会の現場では、こういう考え方はまったく通用しません。私自身の経験から言うと、沈黙は「金」ではなく「罪」であり、「何も考えていない愚か者の証拠」です。

2 ビジネスの交渉の場や、シンポジウム、ディベートなどに出席して、一言も発言しない人がいたとします。日本では、「何か発言すればいいのに。ずいぶんおとなしい人だな」と思われるくらいですむかもしれませんが、欧米では、「あなた、なんのためにここにいるの?」という目で見られます。場合によっては、「邪魔だ」と思われるかもしれません。自分の考えを何も発言しないということは、非常に恥ずべきことだと思われるのです。

3 、ここで使った「欧米」という言葉は、日常語としてよく使われますが、^Aゴゲンをたどれば、「欧」は欧州、つまりヨーロッパ、「米」は米国つまりアメリカのことです。しかし、「欧米」とくつつけたとたんに、欧州と米国を一緒にたにしてしまつて、^a、ヨーロッパとアメリカを同類項に押し込めてしまったような解釈が横行しています。日本以外の先進国という意味であれば、「欧米」は必ずしも外的ではありませんが、「欧」と「米」は共通項こそあれ、本質的には大違いです。ただ、このことは^Bネットウに置いたうえでとりあえず、「欧米」という言い方をここでは使います。

「雄弁は銀、沈黙は金」ということわざは、あくまでも原則の世界のことであって、現実には、黙っていたのでは何もことは運ばないし、何も手に入れることができません。

阿吽の呼吸とか、以心伝心とかいった言い回しがあるように、日本人の多くは、「②」と考へがちですが、欧米社会では、はっきり口に出して言わなければ何も理解されないし、自分から動かなければ何一つ自由になりません。

③

小学生の頃は平気でみんなの前で意見を述べ、先生の質問に積極的に答えていたのに、中学、高校と進むにつれて引つ込み思案になった、という人はいませんか。

人の目が気になり、「誰かに意見を否定されたらカッコ悪い」「人前に立つのだからミスをしてはいけない」「答えを間違えたら恥ずかしい」といった気持ちが強くなるのは、^{※2}思春期特有の現象ともいえます。

でも、人前でミスをしたり意見を否定されたりすることは、ぜんぜん恥ずかしいことではありません。一歩日本の外に出れば、尻込みして何も発言しない方がよほど恥ずかしいことなのです。

意見を述べている時に頭がパニックになったり、意見を否定されて動揺したりすることは誰にでもあるのですから、気に病むことはありません。思っていることを言わないで後悔するより、後悔するくらいならその時に言っておく、というほうがはるかに精神的に健康です。

【あ】

私は二〇代後半からヨーロッパを中心に仕事をするようになりましたが、その時、^{※1}公の場で自分の考えをきちんと発言できるようにになりたいと思ひ、「国際会議やシンポジウムの席で必ず一つは質問をする」という課題を自分自身に与えました。

私にとって難しい課題でしたが、これに慣れない限り、^{※3}コミュニケーション力やプレゼンテーション力や交渉力を高めることはできない、と考えたのです。

でも、そうは思っても、はじめは会場の片隅にちよこんと座ったまま、手をあげるタイミングさえつかめず、ひと言も発

言できずにうなだれて帰ってきました。

4 次は、「質問をしないうちは帰らない」と心に決めて、あるシンポジウムに参加しました。基調講演に耳を傾ける余裕もなく、質疑応答に入るのを今か、今かと待っているうちに、ようやく質疑応答になり、意を決してぱっと手をあげると、演壇上の講演者から指名され、それと同時に案内係の女性が飛んできてマイクを私の前に差し出しました。

ところが席を立ちマイクを手にしたその瞬間、それまで考えていた質問が頭の中からすべて吹っ飛んでしまったのです。結局、何も言えずじまいで着席しました。

「ああ、大恥をかいてしまった。周りの人達はさぞかし僕のことを冷笑しているだろうな」と思いましたが、周囲にはさわめきすら起こらず、マイクを手渡す係の女性はさっさと別の質問者のほうに飛んでいきました。

「そうか、思っていたほど聴衆は他人のことなど気にしていないんだ。b、こちらの失敗をあざ笑っている暇

はない。世間の目や他人の思惑を気にする必要なんかないんだ」と気づいた私は、それから人前で失敗することを恐れなくなりました。

c、この事件の前までは、「人前で恥をかくことは、できれば避けたい」という気持ちはありました。でも、「このままずっと避け続けていたら、自分は一生変われない」とも思ったのです。

こうしてその後、「実践↓失敗↓挫折↓↓新たな実践↓新たな失敗↓新たな挫折」を繰り返していくうちに、少しずつ公の場で発言できるようになっていきました。

【い】

たとえば、将来ついてみたい職業があるとします。建築家、照明デザイナー、庭師、大工、陶芸家、美容師……どんな職業であれ、興味を持っている分野で活躍している人に会ってみたいと思うのなら、方法はいくらでもあります。インターネットで検索すれば、すぐに何人もの名前が出てきますし、人物を絞り込めば、その人のc「ジッセンギや、「いつ、どこで講演会をする」といったスケジュールを知ることでもできるでしょう。

はじめのうちは、「この人に弟子入りするんだ」とか、「この分野を一生の仕事にするんだ」などと思ひ詰めて、「面白そうだから、もうちょつと詳しく知りたい」くらいの感覚でいいのです。そうやって関心のあるものにいくつか接していくうちに、「自分は絶対にこれをやりたい!」というものが見えてきます。

【う】

目当ての人を見つけたら、その人の講演会などに足を運んで話を聞き、質疑応答の時に何か質問をしてみるとよいでしょう。中学生や高校生が質問をしても、問題はまったくありません。d、若い人からの質問を喜ぶ人はたくさんいます。個人で勝負している人は、年齢や見た目で人を判断せず、個人のパッションを評価するのです。

勇気を出して手をあげて質問すれば、必ずきちんと答えてくれる。つまり、その質問をする前に比べると、あなたは新しい何かを手に入れているわけです。

その「何か」とは、よそでは絶対に手に入らない貴重な情報かもしれないし、「ソングイする人が自分の質問に答えてくれた」という満足感だけかもしれません。でも、とにかく確実に新しい感動や知的刺激が手に入るのです。

「的外れな質問をして笑われたら恥ずかしい」と尻込みして質問しなければ、何も得られず家に帰ることになり、成長は何もありません。だから、みなさんには手をあげて質問してほしい。

【え】

もしかしたら昔の私と同じように、当てられたとたんに頭の中が真っ白になって質問を忘れてしまうかもしれません。でも、それでもいいじゃないですか。ゼツクしたからといって、誰もあなたのことを笑ったりしない。それは、この私で証明済みです。

「あーあ、ついに今北さんみたいな失敗をやっちゃった」

と、楽しむぐらいの気持ちでやってみればいい。それを続けていくうちに、「継続は力なり」という言葉のとおり、必ず自分の中に良い変化が起こってきます。

今の私は、みなさんのように中学や高校の時に「人前で恥をかく経験」をしておけばよかったと思っています。一度経験してしまえば、次からは失敗が怖くなくなるので、前向きなことについての「人前で恥をかく経験」は早いほうがいいのです。

(今北 純一著『自分力を高める』より)

※1 シンポジウム、ディベート……「シンポジウム」は、参加者が聴衆の前で講演(その中心となるのが「基調講演」)や意見交換をして、聴き手からの質問などにも答えるもの。「ディベート」は、公的な主題について異なる立場に分かれ討論するもの。

※2 思春期……子供が大人に心身ともに変化する時期。

※3 コミュニケーション力やプレゼンテーション力……「コミュニケーション力」は、社会の中で生きる人と人とが、意思や感情をたがいに伝え合うことのできる能力。「プレゼンテーション力」は、ある情報や企画などを、他の人に伝えたり提案したりすることの能力。

※4 パッション……情熱、激情。

問一 …… A、E のカタカナを、漢字に直していいいに書きなさい。

問二 1 4 に入れるのに最も適当な語を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア	けれど	イ	そこで	ウ	ただし	エ	たとえば
オ	つまり	カ	ところで	キ	なぜなら	ク	また

問三 a d に入れるのに最も適当な語を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア	あたかも	イ	けっして	ウ	なるほど	エ	まさか
オ	ましてや	カ	むしろ	キ	もちろん	ク	やはり

問四

①

に入れるのに最も適当な日本のことわざを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 雀百まで踊り忘れず
- イ 立つ鳥あとを濁さず
- ウ 鷹の子は鷹にならず
- エ 能ある鷹は爪を隠す

問五

②

に入る語句として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア あえて口に出して言わなくても、相手は理解してくれるはず
- イ たとえ自分は動かなくても、まわりがよいようにしてくれる
- ウ つねに真心をもって取り組み、悪いようにはならないはず
- エ はつきり口に出すことは、目上に対して失礼になってしまう

問六

③

には問題文後半の見出しが入ります。その語句として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 頭の中を真っ白にしてみること
- イ 「自分は絶対にこれをやりたい！」
- ウ 人前で恥をかくことは怖くない
- エ 「人前で恥をかく経験」の楽しさ

問七 次の一文を入れるのに最も適当な所を、問題文中の【あ】～【え】の中から一つ選び、記号（ひらがな）で答えなさい。

みなさんにも、できる範囲で、こうしたトレーニングを行うことをお勧めします。

問八

に入れるのに適当な漢字二字の熟語を考えて書きなさい。

問九 次のア～カの各文について、問題文の内容にあつていければ○、あつていなければ×として、それぞれ記号で答えなさい。ただし、すべて同じ記号を答えてはいけません。（この問題については、正解の数から不正解の数を引いたものが得点になるよう採点します。）

- ア 「雄弁は銀、沈黙は金」という西洋のことわざの本当の意味は、どんなによい内容の話であっても、乱暴な言葉づかいでしゃべるよりは、黙っているほうがまだましであるということである。
- イ よく使われる「欧米」という言葉は、ヨーロッパとアメリカを一つにまとめて指す言葉であるが、実際のヨーロッパとアメリカとは、違うところが多い。
- ウ みんなの前でミスしたり、自分の考えを否定されたりすることが恥ずかしいのは、日本人なら誰でも当たり前のことであるが、日本人以外は誰もそれを恥ずかしいとは思わない。
- エ 筆者があるシンポジウムで初めて質問しようとした時は、思いがけない速さでマイクを向けられたためあわててしまい、準備した内容の半分も質問することができなかった。
- オ たとえば、自分の将来の職業について考えるなら、興味のある分野で活躍している人に会える機会を探して、その人に直接、積極的に質問することを筆者は勧めている。
- カ 筆者は自分が人前で恥をかくことを経験したのが遅かったのを悔やんでおり、少しでも早く失敗をおそれない人間になれるよう、人前で恥をかくことを中高生に勧めている。

問十 「新しい何かを手に入れている」とありますが、問題文の筆者のように、「失敗」をおそれず続けていくうちに、自分の中（内面）に良い変化が起こったという経験について、具体例をあげて自由に作文して下さい。そのような経験がどうしても自分自身に思い当たらなければ、人から聞いた話、本で読んだ話などを書いてかまいません。作文はできるだけ漢字も用い、正しくていい文章で書いて下さい。また、「です」「ます」で結ばなくてもかまいません。評価は、内容と表現の両面から行います。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(問題文中の※は、終わりに注があります。また、問題文の一部を書き改めてあります。)

ある日、幸介と悟は子猫を見つけたのだが、幸介は父親に飼うことを反対されてしまった。二人で家出をしても幸介の父親を説得することは出来ず、現在は悟がハチという名でその猫を飼っている。ハチが悟の家に来てから二年ほど経ち、小学校六年生になった二人は京都へ修学旅行にやって来た。悟は父親のお土産として交通安全のお守りを買ったが、母親に頼まれたあぶらとり紙は店の名前がわからず買えないまま、悟は急用で修学旅行の途中にも関わらず帰ってしまった。幸介は悟のかわりにあぶらとり紙を探し出して買い、帰宅したのだが……。

三日目、修学旅行の全行程を終えて家に帰り着いたのは夕方だ。

「ただいま！」

お土産を出しながら旅行のことを話そうとすると、父親にいきなり小突かれた。

「能天気にはしゃいでるんじゃない！」

お土産を渡そうとしたのに雷を落とされるだなんて、こんな理不尽な話が他にあるだろうか。きっと修学旅行から帰ってきた※¹ クラスメイトの誰もこんな仕打ちは受けていない。それを思うと泣きたくなった。

すると母親が神妙な顔で言った。

「すぐに着替えて悟くんのところに行くわよ」

「そうだ、悟が途中で帰っちゃったんだ。何かあったの？」

母親はAを伏せて言葉を探していたが、父親が怒ったような声で

1 と言いつつ放った。

「悟くんのご両親が亡くなったんだ」

なくなった、という表現がピンと来なくてぼんやりしていたら「死んだんだ！」と追い討ちが来た。

意味が分かったと同時に目がぶっ壊れたみたいに涙がぶわっと溢れた。

2 すんなりまた小突かれるが止まらな

い。

悟——さとり、さとり、さとり、さとり！ 一体なんてことに、

修学旅行に出かける前日にも悟の家に行って遊んだ。ハチと遊んでいるとお婆さんは「明日は修学旅行でしょ、朝早いんだからそろそろ帰らない」と幸介を送り出してくれた。「ハチとはいつでも遊べるでしょ」と。

修学旅行が終わって遊びに行ったらお婆さんもいるはずだった。おじさんも。いつもどおりいつでも会えるはずだった。

何より、修学旅行を途中で帰らされて、お父さんとお母さんがいきなりいなくなっていた悟は一体どれほど悲しかっただろう！

「交通事故だったの。一緒に車でかけていて、飛び出してきた自転車を避けようとして……」

自転車は避けられたが、二人は助からなかった。

「今日がお通夜だから行ってあげようね」

母親の出した服に着替えて親子三人で家を出たが、住宅団地の坂の下まで来たときに忘れ物に気がついた。

「そんなもんまた今度でいいだろう！」

怒る父親にどうしてもとせがみ、先に行つていいからと家の鍵だけでもらって一人で帰った。走って戻る背中に「グズな奴だな！」と吐き捨てられた。

悟の家ではなく、公民館だった。

黒い服を着たお婆ちゃんたちが忙しく立ち働き、棺が二つ並んだ祭壇の前にやっぱり黒い服を着た悟が所在なげに座っていた。

「悟」

呼びかけると「うん」と頷いたが、心ここにあらずという感じだ。幸介のほうも呼びかけた後、何を言っているのか分からない。

「これ」

ズボンのポケットから薄い紙包みを出した。父親にグズと罵られて取りに戻った。

「お婆さんの言つてたあぶらとり紙。よーじやだったよ」

①すると悟が突然号泣した。あれを 慟哭と呼ぶのだともつと大人になってから、慟哭という言葉を知ったときに思った。黒い服を着た女の人が駆け寄った。周りのおばちゃんたちよりずっと若い。もしかすると悟のお母さんよりも。悟に声をかけ、背中をさする様子から身内の人だと分かった。

「君は悟のお友達？」

はいそうです、と背筋が伸びた。

「悟を家に連れて帰って休ませてあげてくれる？ この子、帰ってきてから初めて泣いたの。②僕が泣かせちゃったのかな、と 気がそぞろになる。それほど悟の慟哭は凄まじかった。だが、女の方は泣き腫らした目元でかすかに笑った。

「ありがとう」

悟の手を引いて、悟の家まで帰った。悟は途中で何度もえづきながら切れ切れに喋った。

お父さんのお守り間に合わなかった——交通安全の招き猫だけの意味なかった——お母さんのお土産買えなかった——買ってきてくれてありがとう——

喋る内容を汲みとれたのは幸介だからだ。他人が聞いてもただ吠えるように泣いているだけとしか分かるまい。

部屋に入ると、玄関にハチが待っていた。獣のような泣き方をしている悟に怯えた様子もなく、先導するようにリビングに向かった。リビングでとうとう力尽きてへたり込んだ悟の膝に乗り、添えられた悟の手を丁寧に舐めつづけた。③拾ったときは子猫だったのに、今はハチのほうが悟よりも大人のようなだった。

お葬式④のとき、悟はあの女の人の隣でずっとしゃんとしていた。他にも身内らしい人がいたが、あまり近い親戚ではないらしい。

クラスメイトもお焼香⑤にきた。女子などみんなべそを泣いていたが、悟は泣かずに挨拶した。

立派だなどと思った。⑥同時に、悟が少し遠くへ行ってしまったような気もした。もし幸介が悟と同じ立場になったら、たとえ大事な忘れ物を取りに戻る背中にグズと吐き捨てるような父親でも、母親と一緒にいなくなれたらきつと 3

お葬式が終わっても悟は学校に来なかった。幸介は学校で配られたプリントを毎日届けに行き、言葉少なな悟と二人でハチをかまって帰った。

悟の家にはあの女の人がずっと泊まっていた。若く見えるがお母さんのほうの叔母さんで、年が少し離れた姉妹らしい。これからこの叔母さんとここに一緒に住むのかな、と思いながらプリントがない日も悟の家に通った。叔母さんは幸介の名前を覚えて「いらつしやい、幸介くん」と迎えてくれたが、朗らかだった悟のお母さんと違って物静かなので、まるで知らない家に来たような感じがした。

ある日、悟がぼつりと呟いた。

「引越すことになったんだ」

叔母さんが悟を引き取るようになったが、叔母さんが住んでいるのは遠くらしい。

ずっと学校に来ないので薄々そんな予感⑦はしていたが、いざとなると ■にばかり穴が空いた。

そんなのイヤだなんて駄々を捏ねてもどうにもならないことは分かっている。幸介は悟の膝に乗っているハチを黙ってなでた。ハチは今日も丁寧に丁寧に悟の手を舐めている。

「でも、ハチが一緒だろ？」

それなら少しは寂しくない。新しい場所でも悟は一人じゃない。

だが、悟は首を横に振った。

「ハチは連れていけないんだ。叔母さんは転勤が多いから」

悟もやっぱり、そんなのイヤだなんて駄々を捏ねてもどうにもならないことは分かっている顔をしていた。——でも、そんなのあんまりだ。

「ハチはどうなるの」

※4とある「遠縁の人がもらってくれるって」

「悟はその親戚の人、よく知ってるの」

悟は黙って首を横に振り、——⑤あんまりだという気持ちが昂ぶって憤りになった。ハチが悟のよく知らない人のところへもらわれていくなんて。

こんなに丁寧丁寧に悟の手を舐めているのに。

「僕——僕、うちでハチをもらえないか頼んでみる！」

今までも半分幸介が飼っているようなものだった。幸介が飼うようになったら悟は幸介の家に来たらしい。幸介とハチに会いに来たらしい。

お父さんだってハチがうちに来たらハチをちよつとかまうようになってた。最初に拾ったときは駄目だったけど、今なら。だが、

「駄目だ駄目だ、猫なんか！」

父親の返事は最初のときと全然変わらなかった。

「でも！ 悟はお父さんもお母さんも死んじゃったんだよ！ それなのにハチまで知らない人のところに行くなんてかわいそうだよ！」

「知らない人じゃないだろう、親戚なんだから」

「悟は知らないって言ってたよ！」

めつたに会わない遠い親戚なんか子供にとっては他人と一緒にだ。⑥ どうして大人はそんなことも分らないのか。

「とにかく駄目だ、猫なんて十年も二十年も生きるんだぞ！ お前、一生責任持てるのか！」

「持つよ！」

「自分で稼いだこともないくせに生意氣言うな！」

あんまりだと思ったのか母親も途中まで味方してくれたが、父親が余計に意固地になったことも最初のとときと変わらなかった。

「悟くんはかわいそうだが、それとこれとは話が別だ！ 悟くんに断ってこい！」

その宣告を覆せるような力を小学校六年生の男子は何一つ持っていない。しゃくり上げながら悟の家に向かった。住宅団地の坂の下から足を引きずるように登る。

初めてハチを拾ったとき、悟は幸介がハチを飼えるようにと全力投球してくれたのに。全力の方向は明後日だったが、ま

ぎれもなく全力投球で駆けずり回ってくれたのに。

そして最後はハチを悟の家で飼ってくれたのに。

ごめん、と幸介は俯いて涙を絞り出した。

「お父さんが駄目だって」

あのときもそう言って泣いた。だけど今は悲しくてじゃない。悔しくてだ。

息子の親友のために猫一匹も引き受けてくれないような父親だったことが悔しくて恨めしい。今まで気恥ずかしくて口にしたことはなかったが、もし幸介に親友と呼べる友達がいるとしたらそれは悟のほかにはあり得なかった。

（中略）

⑦ 「いいよ」

悟はそう言って泣き笑いの顔になった。

「幸ちゃんが頼んでみるって言ってくれて嬉しかった」

悟が引越していく日、幸介はもちろん見送りに行ったが、信じられないことに幸介の父親もついてきた。悟はうちと親しかったんだから当然だと。悟の大事な猫を引き受けなかったくせに、どうしてそんな恥知らずな真似ができるのか。

仲良しの友達が遠くに行くのを見送ったのが、深刻に父親を軽蔑した最初の記憶になった。

（有川浩作『旅猫リポート』より）

※1 クラスメイト……同じ学級の友達。

※2 よーじや……目当てのあぶらとり紙を売っていたお店の名前。

※3 慟哭……声を上げ身を震わせるようにして激しく泣くこと。

※4 遠縁……あまり親しい関係ではない、遠い親戚。

問一 ～～～ a d の語句の意味として最も適当なものを、それぞれ次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

a 「神妙な顔」

- ア 泣き出しそうな顔
- イ 神々しく優しい顔
- ウ とても困ったような顔
- エ 普段とは違う真面目な顔

b 「所在なげに」

- ア あまり元氣のない様子で
- イ することがないという様子で
- ウ 退屈だという様子で
- エ ぼうっとした様子で

c 「気がそぞろになる」

- ア 頭の中が真っ白になる
- イ 落ち着かなくなる
- ウ 悲しくなる
- エ 後悔する

d 「意固地」

- ア 怒りを表すこと
- イ 口のきき方が乱暴なこと
- ウ 自分の考えにこだわること
- エ 理屈が通らないこと

問二 …… A 「■を伏せて」・B 「■にぼっかり穴が空いた」の■に入れるのに適当な、体の部分を表す漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問三

1 3

に入れるのに最も適当な語を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|----------|--------|--------|----------|
| ア おずおず | イ おろおろ | ウ がやがや | エ くしゃくしゃ |
| オ ぐちゃぐちゃ | カ ずけずけ | キ めめめめ | ク よろよろ |

問四 ①「すると悟が突然号泣した」とありますが、それまで泣いていなかった「悟」がここで突然大泣きを始めた理由を、わかりやすく説明しなさい。

問五 ②「だが、女の人泣き腫らした目元でかすかに笑った」とありますが、このときの「女の人」の気持ちの説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 両親を亡くし心を閉ざしてしまった悟が、初めて感情を表に出せたことがうれしくて、思わず笑みがこぼれる気持ち。
- イ 両親を亡くした悟を思い涙が止まらなかったが、幸介の友達を思うやさしさにいやされて、少し落ち着いた気持ち。
- ウ 両親を亡くし呆然としていた悟がきちんと悲しむことができ、ほつとするとともに、幸介に対して感謝する気持ち。
- エ 両親を亡くした悲しみをこらえていた悟を泣かせてしまったとあわてる幸介に対し、おかしさがこみあげる気持ち。

問六 ③「拾ったときは子猫だったのに、今はハチのほうが悟よりも大人のようなうだった」とありますが、このときの様子の説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 拾ったときは幼かったハチが、今は両親を亡くして悲しみにくれる悟をなぐさめてくれているということ。
- イ 拾ったときは小さかったハチが、へたり込んで小さくなった悟とくらべても大きな猫に成長したということ。
- ウ 悟が子猫のようにうずくまって泣いているので、その手を舐め続けるハチが親猫のように見えるということ。
- エ 子猫だったハチが、獣のような泣き方をしている悟に対しても怯えることなく向き合っているということ。

問七 ④「同時に、悟が少し遠くへ行ってしまったような気もした」とありますが、「幸介」がこのように感じた理由の説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア お葬式へお焼香に来ている誰かが泣いている中で、悟一人だけが涙も流さずに立ちつくしていたから。
- イ 悲しみをこらえお葬式でしっかりと挨拶をしている悟の姿が、自分とくらべると大人びて見えたから。
- ウ せつかく悟を心配してきたのに、ほかの人の相手ばかりして肝心の自分には声をかけてくれないから。
- エ 悟の両親が亡くなったことを改めて実感し、悟と自分の境遇がかけ離れたものになったと思ったから。

問八

⑤「あんまりだという気持ちが昂ぶって憤りになった」とありますが、この部分の説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア これは悟の気持ちであり、両親を亡くしたうえに、家族であるハチとも自分を引き離そうとする叔母さんに対し、怒りをおさえきれないでいる。

イ これは悟の気持ちであり、両親だけでなくハチまでが自分の前からいなくなってしまうことにたえられず、はげしい悲しみにおそわれている。

ウ これは幸介の気持ちであり、ハチが引き離されたうえに、よく知らない所へ連れて行かれるのは、悟がかわいそうだと強い怒りを感じている。

エ これは幸介の気持ちであり、転勤が多いからなどという理由でハチを引き取ろうとしない悟の叔母さんに、ひどい人だと憎しみすら感じている。

問九

⑥ に入れるのに最も適当な一文を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 親戚なんか家族じゃないんだ。

イ 子供にとっては友達が家族だ。

ウ 猫だってだいたい友達なんだ。

エ 友達のほうがよっぽど近くだ。

問十

⑦「悟はそう言って泣き笑いの顔になった」とありますが、このときの「悟」の気持ちをわかりやすく説明しなさい。

二〇一七年度 中学校入学試験（第一回）
 【国語】 解答用紙

*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九	問十	
A	1	a						ア		
B	2	b						イ		
C	3	c						ウ		
D	4	d						エ		
E								オ		
								カ		

*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九	問十	
a	A	1								
b	B	2								
c		3								
d										

氏 名

受 験 番 号

得 点
*